日本体育学会　若手の会

vol.28
2020.6.15

若手研究者コラムリレー

望月　拓実（もちづき　たくみ）

プロフィール

大阪国際大学　講師
日本体育学会の専門領域: 体育経営管理

神奈川県生まれ
2011年　早稲田大学文化構想学部　卒業
2016年　早稲田大学スポーツ科学研究科　博士後期課程　修了

博士(スポーツ科学)
LEC会計大学院助教などを経て現職

E-mail: t-mochizuki@oiu.jp

一番右側が筆者(卒論発表会後の記念写真)

わたしの研究

研究を通して、自分の好きな分野を盛り上げたい

学部生時代、私は大学でのまなびに積極的ではなく、サークル活動(ストリートダンス)に明け暮れているタイプでした。世間において「続けても稼げない」分野に打ち込んでいたため、「どうにかこの分野の価値を世間に認めさせることはできないか」と考えていたところ、中学校体育におけるダンス必修化の話を聞き、研究者としてダンスにアプローチしていくことを決めました。

研究では、中学校体育におけるダンスが、子どもからの人気を集める一方で、教師の指導能力が十分ではないため授業が成立しない問題に着目しました。従来、部活動において用いられてきた外部指導者の理論を援用し、正課教育における外部指導者の導入効果とその導入方法について検討することを研究目的とし、修士論文・博士論文の執筆を行いました。

その後は、調査フィールドを学校体育から民間スポーツクラブにおけるダンスに移し、習い事としてのダンススクールの経営をサポートする研究を行っています。

研究の方向性として、多様なスポーツに共通する理論を構築する研究と、特定のスポーツに着目し、そのスポーツが抱える課題を解決する中で理論を構築する研究があると考えています。どちらの方向性が正しいか判断することはできませんが、自身が研究を継続する源泉となっているものは、好きな分野に対する情熱です。まだ駆け出しの研究者ではありますが、これからも自分の好きなスポーツを盛り上げるために邁進していきたいと考えています。

わたしの渾身の論文・書籍・記事　必読

望月拓実,作野誠一(2019)“現代的なリズムのダンス”授業における教授方略に関する研究―指導案と学習指導要領の再検討から―.スポーツ科学研究

次なる研究テーマ(eスポーツ)

昨年度の体育学会では企画シンポジウムのテーマとしてeスポーツが取り上げられました。eスポーツは国内において研究テーマとして確立されていない状況にありますが、今後のスポーツ業界を支える新しいテーマであると考えており、現在研究を進めています1)。

また、eスポーツというスポーツへの関わり方は、現在社会に多大な影響を与えているコロナ禍においても通常通り実施できるスポーツの一つであり、身体活動量が少ない中でのスポーツ体験を得られる点も注目に値すべき要素であると考えます。

実は私自身もかつて学生時代に部活動を引退した後ゲームセンターに通っていた時期があり、部活動と同じかそれ以上に熱中し、力を注ぐことができることを実感しています。スポーツには身体を激しく動かすことによって得られる楽しさと同時に、人と勝負をする楽しさがあります。eスポーツでは、これまでのスポーツ(eスポーツ研究では伝統的なスポーツと表現します)では参加することができなかった人に、気軽に人と勝負をする機会を提供できる価値があり、これまで埋もれていた新しいスポーツ人口・スポーツ市場の開拓に寄与できるでしょう。

1)望月拓実,木村和彦(2019)我が国におけるeスポーツマネジメント研究の必要性―国外研究のレビューから―..日本体育学会第70回大会

○次回のコラムリレーは沖縄女子短期大学の「喜屋武享」さんを予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました！
→メーリングリスト登録フォーム:
https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2
学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。
taiikugakkaiwakate@gmail.com（担当: 木村）